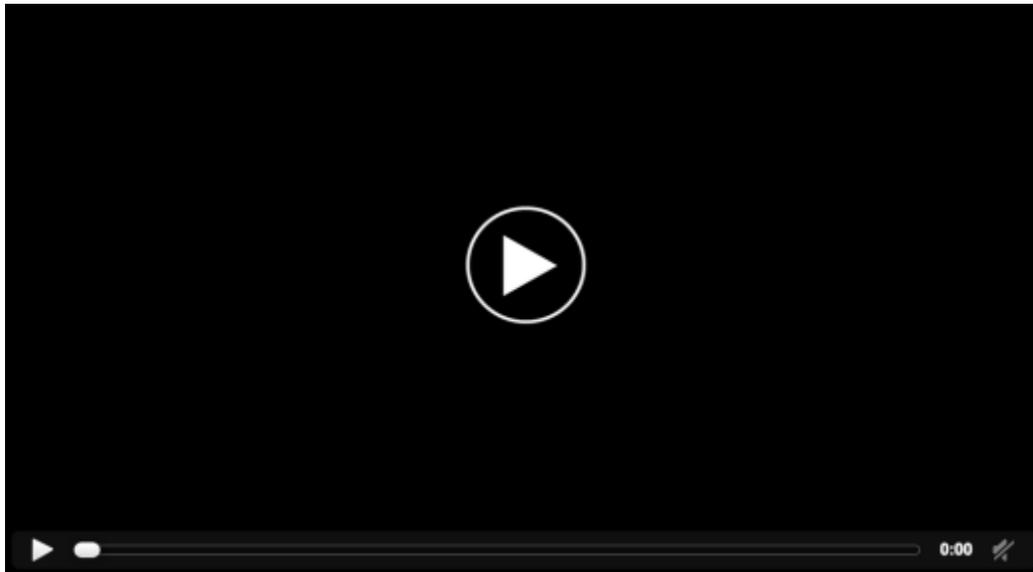


^[放送@TV]!サッカー日本代表 vs イングランドライブ放送・放送・テレビ放送・生放送・ライブ配信・日本gp生中継 2026年4月01日

日本 vs イングランド代表 ロンドン(イングランド)ノウェンブリー・スタジアム. 試合速報は 公式X JFA サッカー日本代表 (@jfa_samuraiblue) にて行います。



大手データサイトが日本vsイングランドを1万回シミュレーション...森保Jが勝つ確率は「19.3%」

大手データサイト『オプタ』は日本代表対イングランド代表の一戦を前に、データをもとに1万回のシミュレーションを行った結果、日本が勝つ勝率は19.3%と算出されたことを発表した。

過去の戦績は日本から見て1分け2敗で、直近の対戦は2010年の1-2の敗戦。アジア勢全体でも対イングランドは過去10試合で4分け6敗と勝利がない。

さらにイングランドは国際Aマッチで21試合連続でゴールを奪っており、これは1910年以来の記録だという。ウルグアイ戦を欠場したFWハリー・ケインなどの出場も濃厚で「トゥヘル監督はウェンブリーの観客に攻撃面での見どころを多く提供したいと考えているだろう」と伝えた。

また、イングランドの直近18ゴールのうち10得点はセットプレーから生まれており、そのうち40%にはアーセナル所属選手が関与している模様。もっともMFデ克蘭・ライスとFWブカヨ・サカが離脱したことを受け、同サイトは今季のプレミアリーグでセットプレーからのチャンス創出数が5番目に多いMFジェームズ・ガーナーや、同6位のMFエリオット・アンダーソンに注目している。

そうしたなかで迎える対戦だが、同サイトは日本が欧州勢に7戦無敗の3連勝中であることも紹介し、欧州勢から4連勝となれば3回目になることを示している。また、スコットランド戦で決勝点を決めたFW伊東純也は直近3試合で1ゴール3アシストだと伝えており、注目選手の一人とみている。

その上で同サイトは1万回のシミュレーションを行った結果、勝つ確率はイングランドが59.6%、日本が19.3%だったと報告。引き分けは21.1%だったようだ。日本代表vsイングランド展望&予想スタメン...じつはGK鈴木彩艶のキックが生命線では「トゥヘル式ハイプレスを利用して」9万人の聖地を黙らせる策とはサッカー日本代表にとって、イングランド戦は北中米W杯に向けての最大の試金石となる。W杯優勝候補であるイングランドの猛烈なハイプレスをかわし、聖地ウェンブリーでアップセットを起こすためには。最後方に控えるGK鈴木彩艶らに試合前日、展望を聞きつつスタメンを予想した。
<NumberWebレポート／全2回>

“プレミアのBIG6で主力をつかみ得る”評価

「『プレミアリーグのBIG6で絶対的主力の座をつかむ最初の日本人は誰になるか?』と考えると、鈴木彩艶がもっともその位置に近いのではないかと考えている」

とある欧州サッカー関係者の推測である。

今はイングランドのプレミアリーグでプレーしていなくとも、それだけのポテンシャルを秘めている。

イングランド代表相手に日本の攻撃的な中盤や、新戦力の台頭が目覚ましいフォワードの能力をいかすためには、まず、起点が安定しないといけない。だから、鈴木彩艶のキックが今宵「聖域」を打ち破るキーとなるはずである。

現地時間3月31日19時45分（日本時間4月1日午前3時45分）、日本代表はサッカーの母国にある聖地ウェンブリー・スタジアムでイングランドと対戦する。イングランドが聖地で負けることは恥であり、簡単に負けることは許されない。相手からすれば、まさに難攻不落の『聖域』である。

欧州の強豪が高い位置からプレスをかけてくる局面で、日本がどこまでクオリティを発揮できるか――。

その問いへの答えが今夜、示される。

彩艶からのビルドアップが生命線となる

今回フォーカスするのは、日本ボールのときに、イングランドが仕掛けてくるハイプレスに対して、日本がどう対応するか、という点だ。

イングランドはマンツーマン気味のハイプレスか、1トップを残してブロックを作ることもある。後者であれば、慎重に前進していけばいい。問題となるのは、彼らがホームの勢いをもって、ハイプレスをしかけてきたケースだ。相手はプレミアリーグ選抜のようなチームだから、当然ながらプレッシングの強度が高い。また、トーマス・トゥヘル監督が率いるチームは、ボールを奪われた直後の素早いネガティブトランジション（攻撃から守備への切り替え）と、相手陣内から仕掛けるハイプレスの組み合わせは、指揮官が歴任したパリ・サンジェルマンやチェルシー、バイエルンと同じく実践している。

日本がGK鈴木彩艶からビルドアップを試みようとするれば、即座にイングランドの前線が圧力をかけてくる。数的優位を作りながらボールホルダーを追い込み、バックパスのコースも消しにくる。その圧力をいかに受け流し、あるいは利用するか。

ここに、日本の攻撃の生命線がある。

ハイプレスへの対抗策は3つある

ハイプレスを相手がかけてきたときに考えられる策は、大まかに3つある。ワールドカップ前最後のインターナショナルウィークに挑んでいる森保ジャパン。難敵スコットランド代表を下し、31日にはイングランド代表との力試しに臨む。世界でもトップクラスのチームとの対戦において、キーポイント、対戦国情報を現地で取材する記者が綴る。

サッカー日本代表vsイングランドはいつ？何時から？テレビ中継・ネット配信予定
ベストメンバーで臨む

日本代表 (C)Getty Images

W杯に向けた腕試しだ。英国遠征の初戦となったスコットランド代表戦で1-0の勝利を飾った日本代表は、聖地ウェンブリーでイングランド代表と対戦する。互いにベストメンバーではないとはいえ、チケット完売の敵地で難しい試合を強いられることは間違いない。いまの自分たちの力がイングランドを相手にどれほど通用するのか。その答えが、超満員のウェンブリーで出る。

初戦のスコットランド戦は”試す”色が強かった。もともと主力として見られる選手の起用は数人程度で、これまで出場機会が少なかった選手を積極的に起用。そこで大きなアピールをした選手もいれば、もう一歩といった内容に終わった選手も出た。”誰が出ても同じサッカーができるように”という観点からすれば、明確な上積みがあったゲームだった。

さらに、後半には主力組を組み込みながら得点を奪いに行くための [3-1-4-2] システムもトライ。まだまだ完成度は低かったものの、そこから得点を奪う力強さを見せ、収穫の多い試合になった。

そこから迎える中2日でのイングランド戦。前回の選手起用を踏まえれば、今回はベストメンバーで試合に臨む可能性が高いただろう。今まで自分たちが積み上げてきたものがどのレベルにあるのか。それを測る試合となるはずだ。

「今の実力をさらに積み上げて、レベルアップしていくことが必要だと思う。W杯優勝基準、世界トップ基準でどれくらいできるかを試したい」（森保一監督）

ブラジルやドイツ、スペインなどを破ってきたように、ここでイングランドに勝利することができれば、本番で対戦したとしてもいいイメージを持って戦えるはず。森保監督の言葉で言えば、「インテンシティ高く、フィジカル的にも強い」イングランドに対し、結果と内容、両方にこだわりながら勝利に向かっていく。